

Appendix

カリキュラム改革チェックリスト

序章

第1章

第2章

Appendix

カリキュラム改革チェックリスト

このチェックシートは、本研究で実施したカリキュラム改革のケーススタディから得られた知見と、内外の既存研究成果の知見を総合的に踏まえて作成したものです。貴学のカリキュラム改革を検討する際にご活用ください。必ずしもすべての項目を満たしていなければいけないというものではなく、改革の際のチェックポイントとしてご活用ください。

視点1 何を問題と捉えてカリキュラムを改革するのか	チェック
現在の(当時の) 大学・学部・学科が抱える課題を詳細に分析している	
大学・学部・学科が抱える課題とカリキュラムとの関係性を詳細に分析し、カリキュラム改訂の方向性を定義している	
教育の理念や精神、到達目標を教員間で共有している	
大学・学部・学科として育成したい人材像を教員間で共有している	
教育理念や人材像をもとに、カリキュラム改訂の方向性や設計思想を教員間で検討し、共有している	
学外(職場や政府等)の求める人材に対応できるカリキュラムになっているか、学科内を検討している	
アドミッション・ポリシーに基づいた人材を確保できるカリキュラムになっているか、学科内で検討している	
入学する学生の資質・能力の実状に対応できるカリキュラムになっているか、学科内で検討している	
学問分野の内容や構造の変化に対応するカリキュラムについて、学科内で検討している	

視点2 カリキュラム改革のための体制構築はどうあるべきか

▶改革推進体制の構築	チェック
カリキュラム改訂において、教授会などの円滑なコミュニケーションが取れる検討委員会(ワーキング)を設置している	
カリキュラム改訂において、「意識の高い教員」「若手教員」をワーキングに巻き込みボトムアップで進めている	
カリキュラム改訂において、学部・学科のトップマネジメントがワーキンググループの活動の信認を与えている	
カリキュラムの効果的な運用(評価・改善)を行う専門組織を構築している	

▶改革への合意形成

カリキュラム改訂において、学部・学科を超えた理解と協力を得ている	
カリキュラム改訂において、できるだけ多くの教員を議論に巻き込み、意見をまんべんなく反映している	
カリキュラム改訂において、反対意見を持つ教員に丁寧な説明を行い、合意形成を図っている	
カリキュラム改訂において、企業など学外の意見をできるだけ取り入れている	
カリキュラム改訂において、学生の意見や評価をできるだけ取り入れている	
カリキュラム改訂において、教授会などで承認のしやすさに配慮している	
カリキュラム改訂において、FDや評価の仕組み、データの活用をし、教育改善に向けた風土を教員の中に作り出している	
カリキュラム改訂において、できるだけ多くの教員が議論の過程や結果についての情報を共有できる手段や仕組みがある	
カリキュラム改訂において、改訂の手続きや意思決定のプロセスが明確である	

視点3 「主体的な学び」を促進するカリキュラムをどう設計すべきか

▶到達目標について	チェック
ディプロマポリシーをもとに、カリキュラム上の到達目標(育成すべき能力)を設定している	
達成度を客観的に評価できる到達目標となっている(漠然としためざすべき人材像の記述にとどまっていない)	
到達目標は社会からの要請や評価を踏まえ設定している	
到達目標は現在の学生の状況を踏まえて、達成可能なレベルに設定している	
到達目標に、社会に出た時に必要な汎用的能力(コミュニケーション力や課題解決力など)が含まれている	

▶カリキュラム(科目構成)について

カリキュラム上の到達目標と、授業上の到達目標との関連性がチェックされており、カリキュラムマップ等でそれらが可視化されている	
到達目標への各授業の寄与度(ウェイト)がわかるようになっている	
到達目標達成のために、不必要な科目は配置されていない	
各科目においては、客観的に評価できる到達目標を設定している	
到達目標の達成という点で、カリキュラムのスコープ(領域・内容)は適切であり、工夫がある	
学生の学習の動機づけという点で、カリキュラムのスコープ(領域・内容)は適切であり、工夫がある	
科目間で教育内容の重複や漏れがないように配慮している	
到達目標の達成という点で、カリキュラムのシーケンス(順序・系統性)は適切であり、工夫がある	
学生の発達段階に即した順序という点で、カリキュラムのシーケンス(順序・系統性)は適切であり、工夫がある	

▶カリキュラム改革のプロセスについて	チェック
ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーを定期的に見直す機会がある	
到達目標達成のために、現在のカリキュラムが有効かどうかを定期的に見直す機会がある	
到達目標達成のために、不必要な科目があった場合、廃止したり、担当者に修正を依頼する仕組みがある	
科目の到達目標をシラバスに明確に記述するためのFD活動を定期的実施している	
科目の到達目標がシラバスに明確に記述されているかどうかのチェックを定期的実施している	
科目が属人化しないように、複数の教員が当該科目を担当できるような工夫がある(例:数年おきに教員が交替する)	
科目が増えすぎないような工夫がある(例:科目数や非常勤講師数の上限を設定する)	
カリキュラムは頻繁に変えなくてもよいように、できるだけ長く利用できるような工夫がある	

▶主体的な学習を促進するプログラムのカリキュラムへの組み込みについて	
1年次の学生に対する導入教育として、主体的な学習を促進するプログラムがある	
1年次の学生に対する導入教育として、基礎学力低下に対応したプログラムがある	
導入教育以後の主体性や意欲低下を食い止めるためのプログラムがある	
2年次以後の学生に対して、主体的な学習を促進するプログラムがある	
主体的な学習を促すプログラムは、企業など学外の意見を反映して設計している	
主体的な学習を促すプログラムにおける経験(体験・実習等)は、知識と関連づけられている	
主体的な学習を促すプログラムにおける経験(体験・実習等)は、振り返りと関連づけられている	
主体的な学習を促進する準正課教育や正課外教育の機会を設定している	

▶主体的な学習を促進するプログラムの実施について	
主体的な学習を促すプログラムを組織的に実施している(教員個人の取り組みになっていない)	
主体的な学習を促すプログラムは複数の教員がかかわり設計・実施している	
主体的な学習を促すプログラムの学習効果を測定・評価している	

視点4 どのようにしてカリキュラムの評価・改善を実施すべきか

▶カリキュラムの運用状況について	チェック
カリキュラム運用において特定の教員に過度な負担がかかっているか	
カリキュラム運用のために必要な予算が確保されているか	
カリキュラム運用のために必要な学習環境(施設・設備等)が整備されているか	
カリキュラム運用のための適切な体制(組織・人員配置等)が構築されているか	
在学生の声をカリキュラムに反映する仕組みが構築されているか	
卒業生や企業など学外からの声をカリキュラムに反映する仕組みが構築されているか	

▶カリキュラム改革の成果について	
社会(企業等)の要請を意識したスキル・能力の育成ばかりに集中し、基礎的な知識の習得に結びついていないことはないか	
基礎的な知識の習得ばかりに集中し、社会(企業等)の要請を意識したスキル・能力の育成が欠如していないか	
現在運用しているカリキュラムに対して教員間での合意形成は十分に図られているか	
各科目の担当教員は、組織が掲げるディプロマポリシーやカリキュラムポリシーと関連づけて授業を実践できているか	
カリキュラム改革によって改革の目的(学力向上、汎用的能力向上、就職率向上、留年・退学者数の減少等)は達成されているか	
大半の学生が、主体的に学ぶ姿勢や汎用的能力、専門知識を身につけられているか	

▶カリキュラムの分析・評価と次のカリキュラム改革に向けて	
カリキュラムを評価するために適切な指標やデータを選択・収集し、分析できているか	
分析結果に基づき、カリキュラムの課題や問題点を把握し、総合的に評価できているか	
分析・評価の結果を組織内できちんと共有できているか	
分析・評価の結果を踏まえて、次のカリキュラム改革に活かすことができているか	